

R7年度長崎版地域包括ケアシステム推進における地域意見交換会(南部)実施報告書

共催:長崎市医師会・長崎市歯科医師会・長崎市薬剤師会・長崎県看護協会 県南支部・長崎県理学療法士協会・長崎県作業療法士会・長崎県栄養士会・長崎市介護支援専門員連絡協議会・長崎市訪問看護ステーション連絡協議会・ながさき地域医療連携部門連絡協議会・長崎市

目的

- ①医療・介護の専門職における長崎版地域包括ケアシステムの理解促進
- ②顔の見える関係づくり・多職種の連携強化
- ③連携における各職種の役割の明確化
- ④専門職の意見を踏まえた施策の検討

対象者 圏域内の医療介護専門職

- ①連携協定締結団体のうち医療・介護に関する専門職(入退院支援に関わりのある専門職)
(市医師会/市歯科医師会/市薬剤師会/県看護協会県南支部/県理学療法士協会/県作業療法士会/県栄養士会/市介護支援専門員連絡協議会/市訪問看護ステーション連絡協議会)
- ②検討テーマに関する専門職:ながさき地域医療連携部門連絡協議会
- ③地域包括支援センター職員等

開催日時等

エリア	日時	会場
南部	9/18(木)19:00~20:30	南部市民センター 多目的ホール

・対象エリア:大浦/戸町・小ヶ倉/土井首/深堀・香焼/南部/小島・茂木

内容

1. 開会挨拶
長崎市医師会 理事 土屋 知洋
2. 長崎版地域包括ケアシステム/多職種のチーム化について
長崎市地域包括ケアシステム推進室長 渋谷 浩司
3. 入退院支援の症例(長崎みなとメディカルセンターの症例)
「60代多発性脳腫瘍の患者 病状進行による認知機能低下の中での意思決定・家族支援と在宅調整」
ファシリテーター:長崎みなとメディカルセンター 医療ソーシャルワーカー 宮川 江利
(1) 医療ソーシャルワーカーの立場から
長崎みなとメディカルセンター 医療ソーシャルワーカー 鈴木 ゆりあ
(2) かかりつけ医の立場から
安中外科・脳神経外科医院 医師 安中 正和
(3) ケアマネジャーの立場から
長崎記念病院指定居宅介護支援事業所 ケアマネジャー 永野 千佳
(4) 講師3人での討議



4. 意見交換会

テーマ「本人・家族へ想いの確認や想いの実現に向けた入退院支援の中で悩んだこと・工夫したこと」



参加者数	(人)
職種	9/18(木)当日
医師	5 11
病院 診療所・クリニック	6
薬剤師	1 5
病院 薬局	4
看護師	12 1 9 3 25
病院 診療所・クリニック 訪問看護ステーション まちんなかラウンジ	1 1 9 3
理学療法士	0 2 2
病院 長崎市在宅支援リハビリセンター	2
作業療法士	2 0 2
病院 長崎市在宅支援リハビリセンター	0
医療ソーシャルワーカー	13
社会福祉士	7 10
病院 地域包括支援センター	3
精神保健福祉士	3
主任介護支援専門員	3 1 4 8
事業所 まちんなかラウンジ 地域包括支援センター	1 4
介護支援専門員	13 1 14
事業所 地域包括支援センター	1
保健師	5 0 6
中央総合事務所 南総合事務所 地域包括支援センター	1
その他(事務職・相談員)	2
医師会事務局	2
行政	5
計	108

※MSW4名 症例発表のみ参加